

# これまでの論点整理（案）について

---

# これまでの論点整理(案)

## 1. 現状と課題

- 用語の改善にあたっては、具体的な問題点を整理し、もし理解が不十分なようであれば、まずはその用語の周知を徹底することが重要。用語は可能な限り変えない方がよい。
- 災害時に人を動かすためには、用語を見直すだけでは難しく、平常時から防災情報や災害リスク、避難行動などに関する理解を深めておく必要がある。
- 防災情報が多様化し理解が難しく、警戒レベルとの関係も分かりづらい。
- 発信者側が用いる専門用語の意味や使い方と、受け手の認識とにずれがある。
- 防災情報が必ずしも的確な避難行動につながっておらず、危険度の実感化や避難の呼びかけが重要。
- スマートフォンやSNSなどの情報通信技術を十分に活用できていない。
- 防災情報について、平常時と災害時における取組や、レベル化の整理などトータルプランニングが必要。

# これまでの論点整理(案)

## 2. 防災情報の伝え方と正しい理解

- 情報の受け手が具体的に危険度をイメージできるような受け手の状況を勘案した伝え方が重要。
- 緊急時には、クライシス・コミュニケーションが重要であり、混乱が生じないよう文脈の中で分かりやすい用語を使ってリスクを伝える必要がある。
- 体温計をみて自分の健康状態が判断できるように、河川の水位などをベンチマークとして、災害の危険度を実感できることが重要。
- 防災情報を避難行動につなげるための避難スイッチづくりが重要。
- 災害時に、専門家が防災情報や用語等について解説を行うことは重要。
- テレビやインターネット等を活用した、河川の状況や施設操作、危険度が高まっている場所などについて、イラストや動画、カメラ画像、地図情報などを用いた分かりやすい説明が重要。また、水害、土砂災害、警報などの各情報を、1つの図にまとめて示すと分かりやすい。
- SNS等により情報が誤解されて伝わっていることが分かった場合、正確な情報を2次的に発信することも重要。
- 河川統計情報や過去の災害事例などを用いた危険度の実感化。
- 現地見学やシミュレーション等を通じて、地域における水害・土砂災害へのリスクや危機感の共有、防災情報や施設操作等の理解促進を図ることが重要。
- 停電などのときでも、音声だけで多数の情報を短く分かりやすい言葉で伝える工夫が必要。
- メディアやNPOなどと連携した防災情報の発信、共有が重要。

## これまでの論点整理(案)

### 3. 防災用語の改善の考え方

- これまでの用語の見直しなどにより概ね改善は図られているものの、情報の多様化、警戒レベルの導入などを踏まえ、受け手がより直感的に状況を理解でき、災害時に安全を確保するための適切な行動がとれるよう、用語の改善や伝え方の工夫が必要。
- 緊急時に住民に行動を促すためには、直感的にわかりやすい用語が必要。テレビ画面に表示する場合などには簡潔な単語がよく、その意味をナレーションで伝えることも可能。
- 用語の使用だけでは十分な理解が得られない場合や、すでに広く使われている言葉を使用する場合などは、関連する情報を付加して理解を促す。
- 新しい情報通信技術を積極的に活用し、防災用語の理解を深めるための図や動画等の提供、用語や防災情報の内容を簡易に検索できる環境の整備などを進める必要がある。
- 防災用語の理解度、防災情報の効果などについての実態把握に努め、さらなる改善や情報の整理を図ることが重要。